

狐の变化玉と似せ本尊・松江市玉湯町下大谷

令和3年9月21日

収録・解説・酒井 董美

ただよし

イラスト・福本 隆男

語り手 春木 務さん（明治44年生まれ）
収録・昭和61年8月18日

あらすじ

昔。隣の地区にたいへん悪い狐がいて、人が通ると化かして頭の毛を半分剃ってしまったので、困っておった。ある利口な若者が、「おらに考えがある。必ず捕らえてやる」と言うので、みんなは彼に任せることにした。

若者はお寺へ行き、方丈さんに衣を、続いて神主さんのところで装束を借りてきた。それを鉄箱に入れ、ある晩、隣地区へやって来た。「狐どん、おるか」と言うと、狐がちよこちよこ出てきた。「こら、おまえ、人を化かすことを知っておるか。そしてなんぼ通り化かすか」「わしは七通りほどより知らん」

「たったの七通りかの、おらは七通りや八通りじゃない。今夜はおまえとこで化かしやこをしようじゃないか」。狐は合点承知した。「これからおれが先に化けるから、目をつぶってしゃがん

どれ」と言うのと狐は目をつぶってしゃがんでいる。

若者は、その間に方丈さんの衣を着て、

「さあ、どうだ。方丈だぞ。目を開けて見い」。

狐は目を開けて感心している。

「今度は神主だ。目をつぶって待っておれ」とすばやく若者は神主の姿に着替えてしまふ。

「どうだ、神主だ」。またまた狐は感心した。

そこで若者は、

「狐、おまえはおれが化ける間に、ちよいちよい目を開けていけん。そこでこの鉄箱に入っておれ」。狐はだまされるとも知らず、鉄箱へ入ってしまった。若者はすぐに蓋をしてしまつて、

「さあ、悪狐を捕まえたぞ」と喜んで、村中のみんなをお寺の本堂に集めて、

「今、蓋を取るから」と箱を開けた。そのとたん、狐はサツと風のように飛び出し、人々は「見た」という者や「見なかった」という者やらがいて、いくらそのへんを捜しても狐の姿はない。ところが、よく見ると本尊さんが二体おられるではないか。

それを見た若者は考えて、こう言った。

「このご本尊さんは『手を出しなさい』と言うと手を出しなさい。『足を出しなさい』というと足を出しなさい。今、ご本尊さんとお話をしてみると言う」と、

「ご本尊さん、ちよつと手をだしなさい」と言った。狐の化けた本尊さんの方は、だまされるとは露知らず、手を出した。

「足を出しなさい」と言うのと足を出す。その拍子に若者は狐を捕まえてしまった。そしてみんなが寄つてたかつて、たたくやら蹴るやらしたあげく、方丈さんの取りなしで、狐も謝つて、こらえてもらつた。

それからというものは、狐も悪いことをしないようになったと。

それでこぼし。

解説

「キツネの变化玉」と「似せ本尊」として知られている話が一緒になった話である。

（元島根大学法文学部教授）

